

就活体験談



エリオット コンティさん

国籍：アメリカ合衆国
出身大学：大阪市立大学
専攻：人間行動学研究科(社会学修士)
日本留学期間：2014年4月～2017年3月
会社：一般社団法人 グローバル愛知
日本語能力レベル：日本語能力試験 N1

■日本での就職理由

アメリカに帰って進学するという夢を持ってきましたが、アメリカより日本で僕の知識と能力を応用し仕事に結び付けられるのではないかと考えるように変わりました。ちょうどそのころ、名古屋でビジネスチャンスに恵まれ、それまで目指していた進路の代わりに日本での就職に決断しました。

■勤務予定先の選択理由

やりがいと将来の可能性を理由に選択しました。学生時代に優秀な先輩が就活に苦しんだり悩ませたりする様子をよく目の当たりにしたため、留学生の就職率を高めることに意義を感じたし、日本企業の国際化を実現させるという挑戦的な業務内容に惹かれました。

■勤務先の事業内容と担当業務

グローバル愛知は留学生の低就職率の向上と日本企業の人材不足の解消をミッションに掲げております。主な事業は留学生の就職支援、各種セミナーや日本語教育・研修の開催、交流事業と企業コンサルティングになります。私は事務局長として、講師をはじめとして企画や営業等、広い範囲で活動しております。

■企業への自己アピールの内容

主に大学院で身につけた能力に力点を置きました。社会学専攻だったため、特に情報収集とデータ分析、問題提起と解決につながる調査設計(質的調査方法)をもって自己アピールしてみました。

■就職活動の際の応募企業数

主に進学を考えていたため、プレエントリーが2社だけでした。運良く経営者と面接する機会を頂き、逆に相手からの提案もいただきました。その提案が新しい事業の構想で、現在の勤務先になっています。

■効果的だった就職活動対策

どのようなことをしたいのか、いかに貢献できるのかという質問に答えられるよう、「五年後の自

分」をじっくり考えました。

■業界・企業研究の方法

主にネットを通じて行いました。検索サイトなどを用い興味ある業界を下調べしました。また、同業界で働いている知り合いにも相談しました。

■エントリーシート・履歴書での注意点

長所が伝わるように書くことに心掛けました。あまり日本的ではないかもしれませんが、自分が作り出せる付加価値に焦点を当て、具体的に書きました。

■面接での注意点

自分が考えるキャリアイメージが伝わるように事前準備をしました。具体例を用意し、それらがいかに就職につながるかを提示した上で、長期的なビジョンの中で仕事を位置付けてみました。

■面接で聞かれた質問

10年後に何をしたいと思いますか、弊社にいかにご貢献できると思いますか、大学院での学んだことをどのようにビジネス業界で応用できますか等です。

■将来の夢

将来の夢は現在の仕事の延長線上にあります。まずは、3-5年の間にグローバル愛知を軌道に乗せ、より多くの留学生と企業の支援ができるように展開させていきたいです。それ以降はグローバル愛知の展開と自分の成長次第だと考えています。

■後輩へのアドバイス

ビジネス界における成功は事前準備にかかっているといっても過言ではありません。就職活動についても同じことが言えるのではないかと思います。今後就活に励む留学生の皆さんに、将来のビジョンをしっかりと見据えた上で取り組んでもらいたいです。それ以降の企業研究、エントリー、面接等、各段階が要する事前準備をビジョンと照らし合わせて頑張ってもらえれば幸いです。



李丹琳 (リ タンリン) さん

国籍：中国
出身大学：同志社大学
専攻：文化情報学部・文化情報学科
日本留学期間：2012年9月～2017年3月
会社：NEC ソリューションイノベータ株式会社
日本語能力レベル：日本語能力試験 N1

■日本での就職理由

中国の中学・高校では第一外国語として日本語を選択し、高校で日本語検定 N1 を取得することができました。同志社大学に入学し、文化情報学部で学びました。日本人と日本語でのコミュニケーションをとることが得意になってきたので、大学で勉強した専門知識を活かして、日本で働きたいと思いました。

■勤務予定先の選択理由

社会のインフラから民間事業まで幅広い領域でビジネスを展開し、海外展開も進んでいる会社でグローバルに活躍でき、新しい挑戦ができると思ったからです。

■勤務予定先の事業内容

医療、物流、観光、金融、小売、自治体、農業など、幅広い領域の課題、社会問題に対して ICT を活用した改善策を提案しています。

■企業への自己アピールの内容

主に大学時代、サークルやインターンシップで頑張ったことについてアピールしました。そして、その中から身につけた能力と自分の強みをどのように仕事に活かすかを素直に伝えました。

■就職活動の際の応募企業数

2016年3月に広報活動が解禁されてから、30社ぐらいの企業へプレエントリーしました。合同説明会を含めて約20社の説明会に参加し、そのうち15社にエントリーしました。9社の面接に進み、そのうち一次面接でグループディスカッションを行う企業は5社ありました。

■効果的だった就職活動対策

三年生の秋学期から準備を始めて、積極的に学内就職セミナーに参加しました。夏と冬のインターンシップは、エントリーシートと面接の練習の場としても有効でした。また、自己分析をきちんと行い、自分に合う仕事・業界を見つけるのが大切だと思います。

■業界・企業研究の方法

業界研究の本を読んで、就職サイトと企業説明会で情報を集めました。また、企業の懇談会に積極的に参加し、その会社で働いている先輩社員の声を聞くのも重要だと思います。

■エントリーシート・履歴書での注意点

書き終わってから、誤字・脱字がないようにチェックする必要があります。そして、強調したい部分とその意味のとおり伝わっているか、自分をきちんとアピールできているか友人の意見を聞き、キャリアセンターからも助言をもらいました。

■面接での注意点

事前に準備した質問を聞かれたら、できる限り緊張しないようにして、明確に伝えます。準備しなかった質問に対しては、その場できちんと考えて素直に答えれば良いと思います。

■面接で聞かれた質問

会社や応募する職種によって違いますが、主にエントリーシートに基づいて質問されました。志望動機について聞かれ、学生時代に困難を乗り越えてやり遂げたことや将来入社したらやりたいことなどを聞かれました。それ以外は、大学での勉強や自分の弱みまたは強みについて聞かれたこともあります。

■将来の夢

これから IoT の時代が来ると思いますので、IT の力で貧困問題と環境問題を改善したいです。そのために、まず専門知識を身につけて自分を成長させ、社会に貢献できるような人間になりたいと思います。

■後輩へのアドバイス

最初から自信を持って行動し、途中で失敗しても諦めないで最後まで頑張っていくことが大切です。特に、Web テスト・適性検査とテストセンターに関する試験対策は、早めに取り組んでください。必ず良い結果が得られると思います。



金東元 (キム ドンウォン) さん

国籍：韓国
出身大学：創価大学
専攻：経済学部経済学科
日本留学期間：2011年5月～2014年3月、2016年4月～2018年3月
会社：日本テラデータ株式会社
日本語能力レベル：日本語能力試験 N1

■日本での就職理由

留学経験をキャリアに活かすためと職種の選択肢が多かったからです。韓国では理系出身者だけを採用する職種も、日本では文理関係なく幅広い採用を行っているのでもチャンスがあると思いました。

■勤務予定先の選択理由

ビッグデータ市場のこの先を考える企業だと思ったからです。また、ビッグデータはビジネスで限定的にしか活用されていません。内定先では、ニーズを先読みし、それに答えられるように努力する姿勢に共感したので選択しました。

■勤務予定先の事業内容

IT コンサルティングの一種です。ビッグデータを貯槽するシステムを構築し、そのデータを用いて分析を行います。そこから得た結果を応用し、ビジネスに有意な情報にしてクライアントに提供します。

■企業への自己アピールの内容

苦手なことに挑戦する性格、そしてそれを裏付ける経験を話しました。勉強に関する話だけではなく、人間関係に関する経験も話しました。様々な困難とそれを乗り越えるための自分の努力について話すことで、問題解決能力と粘り強さをアピールしました。

■就職活動の際の応募企業数

プレエントリーは約30社、会社説明会は25社、エントリーは13社、面接は1社でした。

■効果的だった就職活動対策

自己分析に関しては大学内のキャリアセンターでの面談を活用し、実際の選考に関する情報は大学のキャリア科目から得ました。

■業界・企業研究の方法

興味ある業界に関するニュースや記事を読み、業界・企業の現状とこれからの課題を把握しました。また、日本で働いている多数の先輩と

面談をすることで、現場での雰囲気を間接的に経験しました。最後に、多くの企業説明会に参加し、人事担当の方々に直接質問しました。

■エントリーシート・履歴書での注意点

履歴書を読む人を念頭に置き、可読性を心掛けながら履歴書を作成しました。簡潔で理解しやすい文章にするため、一文が2行を超えないようにまとめ、キーワードを意識して読みやすく書きました。

■面接での注意点

必ず逆質問を準備しておくことを勧めます。逆質問は、企業に関する関心、企業研究の具合などを知るために聞かれます。そこで、自分の志望動機をアピールできる質問を準備しておく面接官に印象づけることもできると思います。

■面接で聞かれた質問

志望動機を聞く質問が大多数でした。具体的には、その業界と会社を選んだ理由など聞かれました。入社してからの目標や希望部署、経験したいことなども聞かれました。

■将来の夢

大学で勉強した統計学を活かして、ビッグデータの専門家になりたいと思います。まだ実際に市場で有効活用されているケースは限定的ではありますが、これから発展していく技術を用いて人々の生活をより効率良く豊かにすることが私の目標です。そのため、将来的にはビジネスに限らず、公共部門に関わるような仕事もしたいと思っています。

■後輩へのアドバイス

私は以前、先輩から「就職活動は結婚活動と同じだ」と言われたことがあります。一生を一緒に過ごせる相手を見つけるためには素直な自分を見せる必要があります。皆さんも、飾らない自分で就職活動に励み、自分とマッチする企業に巡り会うことを応援しています。



ゲン ティ フォン リーさん

国籍：ベトナム
出身大学：大阪大学大学院
専攻：人間科学研究科・グローバル人間科学
日本留学期間：2012年4月～2016年3月
会社：JESCO ホールディングス株式会社
日本語能力レベル：日本語能力試験 N1

■日本での就職理由

日本人とは違う価値観や考え方を活かし、日本企業の新しい基盤を築く力になりたいと思いました。また、自分が日本で就職することで、母国のベトナムを含む多くの留学生にも、働きやすい環境が提供できれば良いと思っています。

■勤務予定先の選択理由

アジア進出という積極的な経営戦略を打ち出しており、成長性があると感じました。またアセアン進出には、自分の留学経験で得た国際感覚や語学など、色々な面で貢献できると思いました。そして、大変魅力的な社員が多く職場の雰囲気がとても良かったので入社を決めました。

■勤務先の事業内容と担当業務

JESCO グループの業務内容は、電気設備工事と電気通信工事が主なものになります。現在は、戦略経営企画室のリクルートチームの一員として、新卒採用に携わっており、特に留学生採用のメイン担当者として説明会から選考、内定フォローまで担当しています。

■企業への自己アピールの内容

留学に際しての困難と、それを乗り越えた実績、またその中で得た経験が今後の業務にも有効であることや、自分なりに描く将来像などを話してアピールしました。

■就職活動の際の応募企業数

プレエントリー：80社、会社説明会30社、エントリー15社、面接15社、内々定5社。

■効果的だった就職活動対策

就職活動対策は4つあります。一つ目は、自己分析・筆記試験対策です。二つ目は業界・企業研究、三つ目は、自分に合った職種を探すこと、四つ目は、エントリーシート・面接対策です。

■業界・企業研究の方法

まず、日本にどんな業界があるが知ることで。続いて自分が「何を」「どのように扱っている」

会社に就職したいのかを検討し、対象となる企業をリストアップし、具体的に自分が行う仕事を想像しました。

■エントリーシート・履歴書での注意点

入社意欲が高いことを伝えるため、長所の具体的なエピソードとその長所が活かせる具体的な業務を書き、企業のベクトルと自分の強みが一致している点を強調しました。

■面接での注意点

私の経験では、日本の面接官は緊張を解くために、雑談から入ることが多いので、最初は会話のキャッチボールを楽しみ、スムーズな流れを作ることが大切だと感じています。

■面接で聞かれた質問

これまでに経験一番困難なことはなんですか、それに踏まえてどうやって克服しましたか、仕事上で活かすことのできるあなたの強みを教えてください等です。

■将来の夢

JESCO の活動エリアを、現在の「日本・アセアン」からさらに拡大し、広く世界に貢献したいと考えています。そのために、語学力を今以上に磨き、グローバルな人事のプロフェッショナルを目指します。また、日本での留学や就職などから得た経験を、いつか本にまとめたいと考えています。

■後輩へのアドバイス

皆さんに伝えたいのは、日本で就職する場合、ほとんどが日本人ばかりの組織です。異文化理解で、戸惑うことや苦勞することもたくさんありますが、このことを覚悟したうえで、挑戦してほしいです。すぐに結果を求めず、将来は重要な役割を担える人材となれるよう努力すること。困難があっても最後まであきらめず頑張ることで道は開けると信じています。

いまだから話せる 日本の就活

悩み、苦しみ、失敗談など、日本での就活を体験した先輩たちの飾らない生の声をご紹介します。

面接の時などに、日本語で思っていることを正しく伝えることが難しかった。日本人学生と積極的に関わりを持つなど、普段から日本語によるコミュニケーションに慣れておくべきだと感じました。中国(女性)

Web エントリーをしようと思ったら、志望理由など長い文章の入力が必要だったので、ブックマークだけしておきました。気がついたときには、すでに締切り日を過ぎていて…。準備不足でした。インドネシア(男性)

まったく準備をしないで、SPIを受けました。ベース配分もわからず、時間を使いすぎてしまいました。特に国語は、問題の意味を理解するだけでもたいへんです。十分な準備をしてから受験しましょう。ベトナム(男性)

とにかく就活をはじめるのが遅すぎました。私は工学部で、大学院に進もうと考えている人が多かったようで、まわりの日本人学生も、まったく就活をしていませんでした。自分の将来は、自分で切り開くべきです。韓国(男性)

留学生を採用する企業かどうかはわからなかったため、はじめからあきらめていました。ある時、同じ大学の留学生が、面接に行ってきたと聞いて、もっと積極的にアプローチすべきだったと思いました。中国(女性)

日本で就職した留学生の先輩が、まわりになかったため、日本企業がどのような理由で、留学生を採用するのかがわからなかった。ある企業の面接では、どう答えるべきかに迷って、黙ってしまいました。台湾(女性)

日本で就職するために、求められる日本語能力。

留学生のみなさんにとって、日本語能力を磨くことは、決して容易なことではないと思います。日本語によるコミュニケーションにおいては、話す相手やその時々場面によって、言葉を使い分けることが求められます。また、その言いまわしによって、相手に与える印象が大きく異なります。みなさんの日本での生活を振り返ってみても、言いまわしによって生じる微妙なニュアンスの違いに戸惑うことが、少なくなかったのではないのでしょうか。

しかし日本企業に就職し、ビジネスの世界で成功するためには、こうした日本語特有の言いまわしや言葉の選び方にも精通し、十分に日本語を使いこなす必要があります。こうした背景から、日本企業が留学生のみなさんに期待する日本語能力は、きわめて高度なものとなっているのです。

日本企業の多くは、日本で学んできた留学生は、すでに十分な日本語能力を備えていると考えて選考に臨みます。たとえ日本語能力試験でN1と認定されていたとしても、ビジネス上のやり取りを日本語で行うには力不足と判断されれば、採用を勝ち取ることは困難となるでしょう。就活を成功に導くためにも、日本語の勉強をおろそかにせず、高度な日本語能力を身につけることが大切です。

第一印象とは、「初めて接した時の感じ方」のことです。

就職活動においても、面接試験で最初に評価されるのは第一印象です。面接を有利に進めるためにも、第一印象を良くすることは不可欠ともいえます。第一印象は自分が決めるものではなく、他人が決めるものです。以下のポイントについて、他の人に確認して、悪い点は直すようにしましょう。

1 表情

「表情」は、視覚からくる見た目の印象の中で、一番強いイメージを与えるものです。

良い第一印象を与える「表情」は、自然な「笑顔」です。自然な「笑顔」になるには、リラックスできるかどうか大きなポイントになります。そのためにも、事前の準備をしっかりと、自信をもって臨むようにしましょう。

また、視線も「表情」では重要な要素です。視線の向け方で表情は変わってきます。話す相手の目を見て話すようにしましょう。

2 身だしなみ

「身だしなみ」で大切なことは、「清潔感」です。

「清潔感」とは、相手に対して不快感を与えない服装や髪型、メイクであり、最も大切なことです。たとえば、服や靴に汚れやシワがないか、髪に寝ぐせがつかないか、メイクは派手でないか、爪は切っているか等です。

3 立ち居振る舞いと姿勢

背筋が伸びた姿勢であれば、自然と胸を張った姿勢になります。この姿勢は、一番良い印象を与えるものです。面接では座ることも多いため、座ったときの姿勢にも注意しましょう。「一つ一つの動作にメリハリをつける」ことも大事です。「動作をきちんと止める」ことで動きにメリハリをつけましょう。

■きれいなお辞儀をするためには

頭だけを曲げない……頭だけ下げてお辞儀しないようにしましょう。お辞儀は腰から曲げます。手の位置は男性と女性で異なる……手の位置は、女性は体の前で両手を合わせます。男性はズボンの脇に手を降ろします。指はまっすぐ伸ばしたほうがきれいです。

4 話し方

話し方で最も注意したい点は、声の大きさです。声が小さいと自信のない印象を面接官に与えてしまいます。話をする際は、大きな声でゆっくりと、何よりもはっきりとした発音を心がけることが重要です。留学生で多いのが緊張してしまい、早口になってしまうことです。できるだけゆっくりと話すように心がけましょう。

ここでは留学生がなぜ日本の就職活動で苦戦しているのかをデータを参考にしながら分析します。先輩留学生が体験した日本での就職活動の困ったことや準備しておけばよかったことなどを整理しました。

留学生が就職活動で困ったこと

右図は先輩留学生へ「就職活動で困ったこと」についてのアンケートの結果です。アンケートの結果をまとめると大きく3つの要因があるようです。

■就職活動に対する理解不足

■ビジネスシーンでの日本語能力の不足

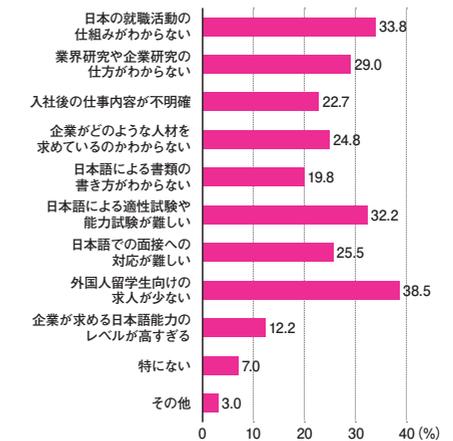
■留学生向けの求人情報が少ない

日本の就職活動は海外と比べ独特な採用方式や文化があり準備に時間がかかるようです。

また、日本語能力については、日常で使用する日本語でなく、ビジネスシーンで使用する高度な日本語能力が必要です。特に就職活動では、筆記試験の問題も提出する資料も日本語のため苦労しているようです。

求人情報については、外国人留学生を積極的に採用する旨を広報している企業が少いため、留学生を採用している企業を探すのに苦労しているようです。

■就職活動中に困ったこと



出典：経済産業省「外国人留学生の就職及び定着状況に関する調査」(2015年)

留学生が就職で足りないと感じたこと

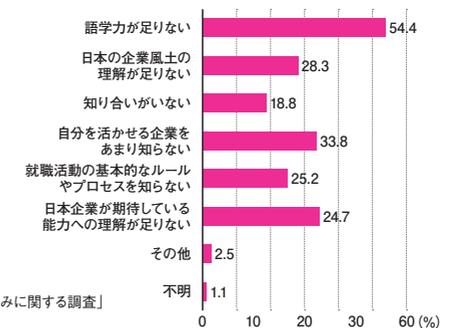
右図は先輩留学生へ「日本での就職にあたって足りないと感じていること」についてのアンケートの結果です。アンケートの結果をまとめると大きく2つの要因があるようです。

■業界・企業理解の不足

■日本語能力の不足

日本企業は独特の企業慣習があります。留学生は、企業がどのような能力を求めているか、自分を活かすことができる企業がどのような企業かを見つけることに苦労しているようです。また、日本語能力についても企業が求めるレベルに達していないと感じる先輩留学生が多いようです。

■日本での就職にあたって足りないと感じていること



出典：厚生労働省「大学における就職支援の取り組みに関する調査」(2014年)

COLUMN 2で整理した先輩留学生が「就職活動で困ったこと」に対して、どのように就職活動に取り組んでいくべきなのかポイントを整理しました。

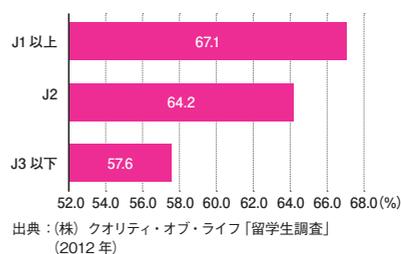
就職活動に対する理解不足

- 日本の就職活動がどのように行われるのか早い時期に理解し、そのために必要な準備を行いましょう。
- 就職活動は卒業年次の前の3月からスタートします。準備は早く行うことが大事です。
- 経済的な準備、貯金も必要です。就職活動ではスーツ・カバン・靴などの服飾費、交通費等が必要となります。
- 自分の就職活動の方法が間違っていないか定期的にキャリアカウンセリングを受けましょう。
- うまくいかなくてすぐあきらめる留学生が多いです。最後まであきらめないことが大事です。
- 留学生の先輩(就職決定した人、就業している人)からいろいろと就職活動の情報収集をしましょう。
- 日本人学生とのネットワークを構築して情報収集しましょう。

ビジネスシーンでの日本語能力の不足

- いろいろな立場の日本人(先輩・後輩・アルバイト上司・先生・企業で働く人)との交流を行うことで正しい待遇表現力を身につけましょう。
- 新聞を読む習慣をつけることにより時事に対する知識と日本語読解能力を身につけましょう。
- 就職活動では提出する書類が多くあります。日頃から日本語を書く練習をしましょう。
- 日常使用する日本語と日本企業において就業時(就職活動)に使用する日本語は違う性質を持っています。ある程度日本語が上達したら「ビジネス日本語」にチャレンジしましょう。
- 最近日本企業においても英語能力を重要視する傾向があります。日本語能力だけでなく英語能力も身につけましょう。

■ BJT ビジネス日本語能力テストスコアと内定率の相関関係



求人情報の不足

- すべての日本企業が留学生を採用しているわけではありません。留学生向けの合同企業説明会や面接会には積極的に参加するようにしましょう。
- 大学内のキャリアセンターや学外の支援機関(外国人雇用サービスセンター)等を活用しましょう。

就職活動も後半に差しかかると、内定が出る・出ないで一喜一憂することが多くなってきます。ここでは複数の内定が出たときにどうすべきか、内定がまだ出ていない方はどうすべきかを整理しました。

2社以上の企業から内定が出た場合

就職活動の終盤に差しかかると、2社以上の複数企業から内定が出る場合があります。そうした場合、入社する企業以外には内定を辞退しなくてはなりません。内定を辞退する際には以下の点に気をつけましょう。

①内定辞退の連絡はメールではなく、電話で伝える

何度も選考をしたにも関わらず、メールのみで簡単に辞退を伝えてしまうと、相手に誠意が伝わりません。できるだけ電話で相手に辞退の旨をお伝えしましょう。

②どの企業に入社するのかを伝えなくても問題ない

辞退の連絡をする際に、企業の担当者から「どこの企業に入社するのか」と聞かれることがあります。その際に入社する企業名を伝える義務はありません。

③内定辞退を伝える際に、長時間拘束される等困ったことが発生した場合

内定辞退を電話で伝えると、来社して説明するよう求められることがあります。

その際に、企業で長時間拘束されて入社承諾書にサインをするよう迫られたり、内定辞退を思いとどまるよう説得されることがあります。このような事態が発生した場合には、早急に学校のキャリアセンターや就職課に相談しましょう。たとえ「入社承諾書」や「誓約書」にサインをしても、法律による拘束力はありません。自分の意思に反することを強要されたら、焦らずに対処するようにしましょう。

企業は時間と労力をかけてみなさんに内定を出します。その分、内定を出した学生への「入社して欲しいという思い」は強い傾向にあります。企業に納得してもらうためにも、誠意ある対応を心がけましょう。

内定解禁以降の就職活動

就職活動は、選考活動解禁時に多くの企業が一斉に選考を開始するため、開始後1～2か月間が一番活発な時期となります。その後、企業は内定解禁となる10月に「内定式(正式な内定通知を渡すための式)」を開催することが多いため、内定式までの採用活動終了を目標とし、採用枠充足に向け活動を続けます。しかし、内定解禁以降も採用枠が充足していなければ学年終了の3月まで採用活動を続けることもあり、10月以降も企業の選考に進むチャンスがあります。特に中小企業では、大手企業の採用時期と重なることを避けて採用活動を行うことが多く、選考のピーク以降に選考開始する企業もあります。企業は採用枠が充足次第、選考を終了します。そのため、興味がある企業には早めにエントリーするようにしましょう。

4月1日に入社するには、在留資格変更手続きを1月末までに行う必要があります。その時期までに申請ができるように、内定獲得に向けて活動していきましょう。